

副官

社會記事資料（其ノ五三）

一〇一七、后

海軍軍事普及部報道班

悪虐無道の支那空軍

（而も其非を掩ひ我軍を誣ゆ）

支那側では戦況日に非なるが爲、盛に無根のデマを飛ばして皇軍を誹謗し、第三國の同情を求め聯盟などに訴へてゐるが、中にも我海軍航空隊が南京や廣東に於て故らに平和市民を狙つて爆撃したと虚報を放つてゐる。

然るに我海軍機に依つて虐殺されたと云ふ悲惨なる光景の寫眞は、いづくんぞ知らん支那機が八月中旬上海南京路に於て行つた爆撃の寫眞であつて、之がロンドン邊りで仰々しく日本軍の空爆として新聞紙面を賑はして居るのだ。

1170

支那空軍を以て上海租界の日本人居住區域を徹底的に爆撃して之を襲殺し、十數倍に餘る中央軍を以て我陸戰隊を殲滅せんとする事は豫て支那軍に依りて計畫された事であつて、其の攻撃の前日に豫め外人や支那住民に對して内密に避難する様に通告してゐた事に依ても明白である。

其後支那軍飛行機は我軍事施設計りでなく虹口區域の我避難民の集團所を狙つて度々爆彈を投下した。爆彈は我中部小學校にも命中して婦人小兒にも死傷者を出して居る。又白晝米國汽船のプレシデントブーバー號を爆撃したり、我病院船に對しても度々投爆して居る。

九月十八日の滿洲事變紀念日の夜には楊樹浦方面に十ヶ所焼夷彈を投下したが其後に於ても度々焼夷彈を使用して居る。此の焼夷彈の燃焼は約十日間も續いたのであつた。

焼夷彈の使用は國際公法上禁じてあるので、支那こそは凡有る國際法を

無視して居るものと云へよう。

我海軍航空隊が爆撃目標を作戦關係施設にのみ極限し住民區域や外人の權益等に對して如何に注意深く之を制限してゐるか、空襲部隊が目標識別の爲低空に下降し、又は危険なる運動をする等の爲度々犠牲を拂つて居る事實に徴しても明かであろう。又遠く數千浬の渡洋遠征を行つたが、目標附近に霧があつて、兵器廠と市民區域との見分けがつかなかつたので、一發の投弾をも行はずに歸還したと云ふ如き慎重な一實例もある。

然るに支那政府一流の哀號を以て事理轉倒の宣傳を行ひ、今や世界の耳目を欺きつゝある現状であるけれども我々は皇軍の此の公明正大が遠からず世界の正義人士に諒解されるに至る事を信ずるものである。

寫眞は上海、楊樹浦にて支那飛行機の投下せし燒夷彈の彈體  
爆彈とは全然區別し得る。此彈體は今般航空本部前田中佐上  
海より持参